

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

転生、ZERO魔（超改訂版）

【作者名】

N i c k 5 8 1 4

【あらすじ】

どうも、にじふあんでも「転生、ZERO魔」を投稿しておりました、nickです。

今回は、内容の大幅改変があったため題名に、超改訂版、とついております。前作とはもはや別物ですが、一応前作からの流用が多々あるためこのような題名になっております。

第四次聖杯戦争に敗退したケイネスさんは気づいたら赤ん坊になっただけで、そこはゼロの使い魔の世界だったのだ！

彼はその新たな世界で、どのような人生を歩んでいくのだろうか！
ただし、ケイネスさんは新たな性別で人生を歩みます。

プロローグ

第四次聖杯戦争

それは極東の国日本の冬木市にて繰り広げられる、

万能の願望機とされる「聖杯」を奪い合う争いであり、この私の参加した戦争でもあった。

そう、「あった」。過去形だ。

私は「戦歴」という「箔」をつけるために戦争に参加し、

その中でアインツベルンの魔術師の卑怯な手により殺された、はずだったのだ。

愛する人ソラウを助けるために、私はアインツベルンの魔術師の差し出した自己強制証文セルフギアススクロールにサインをし……

「令呪をもって命ず、自害せよランサー。」

自らの戦いに、終止符を打った。

「残る全ての令呪を費やして、サーヴァントを自決させる。確かに事件は満たされた。」

アインツベルンの魔術師がナニカ言っている……どうでもいいことだ。私の戦いはすでに終わり、愛する人ソラウは私の腕の中にいる。

「あああああああ……」

目の前では、自らの腹部に槍を刺したランサーがくず折れている。

「貴様らは・・・そんなにも、そんなにも勝ちたいか・・・そうまでして聖杯が欲しいか!?この俺が、たった一つ抱いた願いさえ踏みにじつて・・・!!貴様らは！何一つ恥じることはないのか!・・・許さん、断じて貴様らを許さん!!」

・・・?何を言っているのだ、ランサーは?たった一つの、願い?

「名利につかれ騎士の誇りを貶めた亡者ども!その夢を我が血で汚すがいい!」

まさか、本気だったというのか・・・?聖杯はいらぬというのは、騎士として私に仕えることができればそれでいいというのは・・・

「聖杯に呪いあれ!その願望に災いあれ!いつか地獄の釜に落ちながら、このディルムツドの怒りを思い出せええ!!」

ならば、ならば全て私の勘違いだったと・・・?思い込み、だったというのか・・・?なぜ、なぜもつと早く気がつけなかった?気がつきたはずだ、奴の伝説を考えれば・・・気づかなかったのは、私の・・・

ランサーが消えてゆく・・・血の涙を流しながら、血の慟哭を吐きながら・・・完全に消えてしまう前に、せめて、せめて主として最後の仕事をしなければな・・・こんなにも愚かな私を、主と呼んでくれた、あいつのためにも・・・

「・・・すまなかったな、ランサー、いやディルムツドよ・・・」

「あ、るじ・・・?」

「まだ、私をそう呼んでくれるか……私が、私が愚かだったのだ、ディルムッド……すまなかった……」

「いえ、そんな……」

血を吐きながらしゃべるディルムッドの声はかすれている……
もう、肩まで消えている。時間は、ないか……

「大儀であった、我が槍よ。そなたは、勝利こそもたらすことはできなかったが、そなたの槍、武勲は私の誇りだ……我が騎士、ディルムッドよ……」

「」

ランサーは何事かを口にしようとして……既に口の部分も消えかけているため言葉にすることはできず、消えていった。

だが、その顔は満足そうな顔をしていたと思う……

「これで、ギアスは成立……もう僕にはお前らを殺せない。」

タンッ タンッ タンッ タンッ

数発の弾丸が私の身体に叩き込まれ、その衝撃で私は後ろに倒れる。ソラウも放り出されてしまった。

「僕には、な……」

そっか、そっか……!!!

「き、なま……」

アインツベルンの魔術師は、確かに私たちに手を出せない。だが、その仲間なら、ギアスの対象外だ。

「悪いが、止めを刺すことはできない・・・そういう契約だから・・・」

貴様という奴は、どこまで・・・!!!

するとセイバーがこちらに近づいてきて、剣を振り上げた。

ありがたい・・・

剣が振り下ろされ、私の意識は闇に落ちた。

これが、死、か・・・

存外、暖かいものなのだ・・・

ん？あれは、光か・・・？なにが、起こって・・・

そして、私は生まれた。

「おぎゃあああ（なんだこれはあああ！！??）」

わけがわからん。